

平成 30 年度事業計画

学校法人 沖永学園

1. 学園の現状と基本方針

沖永学園は、創立以来社会のニーズに応えるため組織の設置・改善を重ね、現在では短期大学 1・高等学校 1・中学校 1・幼稚園 2 を擁している。「礼儀・努力・誠実」を建学の精神とし、帝京大学グループとしてのメリットも生かしつつ、人格を磨き社会で役立つ実学を重視する。

2. 教育研究に係わる課題と方針

(1) 帝京短期大学

① 生活科学科

<生活科学専攻養護教諭コース・専攻科養護教諭専攻>

養護教諭に必要とされる資質・能力を磨くために授業以外に渋谷区の小学校をはじめ、地域の福祉施設や子ども食堂など地域の障害者との関りなど多様なボランティア活動を取り入れ、コミュニケーション能力や子ども理解を深められるようにしている。また、実践的な学びを充実するために野外活動や複数の臨床実習の場を設定している。1 年次からの採用試験対策やリカレント教育として卒後教育も継続している。しかしながら、基礎学力の低下が目立ってきており、2 年間、あるいは 4 年間で養護教諭を目指す学生が自己実現できるようにさらに指導の工夫を図る。

<生活科学専攻生活文化コース>

学生の社会性育成のプログラムの精度を高めるため以下のように改善する。㊦昨年度演習での活動分野ごとに編成した 3 プロジェクトチームを改善し、学生の自主的な地域貢献力を高める。㊧観光関係に関して、観光業は様々な業界に関連していることや就職活動という観点から、1 年生時のインターンシップに加え引き続き 2 年生時に観光ゼミ研修を実施する。㊨昨年提携した渋谷区との S-SAP 事業において、近隣商店組合や自治会との協定の下での花コミュニティー活動、こども食堂等の展開や、ささはたカフェと連携した地域社会とのコミュニケーション促進を継続する一方、㊩国及び都のオリパラボランティア事業、とりわけ渋谷区との「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会渋谷区関係団体連絡協議会」での渋谷区内 9 大学連絡会での事業に参加し、学生の地域社会性をさらに高める、㊪それが具体的な就職に繋がる事業展開を進める。

<食物栄養専攻>

平成 29 年度の実業計画を継続し、給食管理実習校外の学習成果を良好に獲得するため、給食管理実習校外の事前・事後指導の充実を図る。特に教員と学生および学生間のコミュニケーションを十分に行い、学生個々が実習での学習成果を獲得する。また、将来栄養士として仕事に就くための専門知識を習得するようにする。加えて、キャリアサ

ポートセンターと連携し、就職・進学活動を支援し、学生が専門知識を活かした進路に進めるようにする。

②こども教育学科

学生の現場対応力強化を重点課題とする。具体的対応としては、渋谷区の教育委員会および子ども家庭部の協力による、実習に向けての第一歩として幼稚園・保育園での1日参加実習での事前指導および、ボランティア活動への参加、また、帝京こども教育研究会(平成21年発会・年2回実施)に参加し、講演・グループ幼稚園(4園)の研究発表を聞き現場を知る。さらに、キャンパス内にある帝京めぐみ幼稚園で空き時間を利用した体験実習を行い連携を充実させる。キャリアサポートセンターと連携し公務員試験受験指導に力を入れる。

③ライフケア学科

<臨床検査専攻>

余裕のある時間割で学生が予習や復習をしっかりと出来るように採り入れた新カリキュラムが3年目を迎えるが、当初の意図に反して、空いた時間を学習に当てる学生は少なく、留年率、退学率が依然として高い状況にある。日頃からコツコツ学習する意識を身につけるためこまめに行っている小テストも疎かにする学生が少なからずいるため、本年度は学生に目的意識をしっかりと持たせ、日頃からコツコツ学習することの大切さを担任が協力して指導していく。また、平成29年度後期の全実習で試験的に実技試験を行ったところ、実習内容を確実に理解できていない学生が相当数いたため、本年度は前期から全実習で実技試験を実施する。

<専攻科臨床工学専攻>

学位授与の要件を満たす専攻科として平成25年度から大学評価・学位授与機構(現大学改革支援・学位授与機構)の認定を受けている。臨床工学専攻では、広汎かつ高度な専門知識を有する人材を育成するために、工学の専門知識や技術ならびに医学の幅広い知識を修得できるよう授業の充実を図り、国家資格取得を目指す学生の専門性をさらに高める。次年度では、より充実した教育指導を行うために新たな計画としてスモールグループによる担任制を設置し、学習計画から生活・進路指導まで充実した指導を行う。さらに、各試験(学内模試9回、全国统一模試3回)の見直しの強化および学会検定試験の取得を目指し、最終目標とする国家資格取得に向けその向上を図る。

<柔道整復専攻>

本学の教育方針である「社会で役立つ実学」を踏まえ、基礎医学教育の充実と臨床技術向上を目指し、新カリキュラムの導入を行い臨床の現場で必要とされる「治す力」を備えた柔道整復師の育成を目指す。基礎医学教育強化を目的に解剖系教科を増設し、実技技能の向上を目的に固定法各論の授業を新設した。また、新しい臨床実習制度に対応した附属実習施設の整備と運営を行う。従来より取り組んできた授業や客観的臨床能力試験(OSCE)を通じて「当たり前前の方が当たり前前ができる」学生の育成を目標に指導を継続して行く。

④通信教育課程

説明会、卒業生(同窓会)等を通じて学生募集活動(特待制度を含め)を強化する。就職希望者に対する情報提供、フォロー体制を強化する。入学オリエンテーションの充実

を図るとともに、在校生に対して、学生便覧、サブテキスト、帝短通信・担任等を通じてレポート作成のポイントや注意点等への学習指導を充実させる。

(2) 帝京八王子中学・高等学校

知・徳・体の全人教育を、生徒の個性と発達段階に即して行い、健全な育成を期することを教育目標とする。努力をすべての礎として、教育目標達成の手段として校訓『礼儀・努力・誠実』を定め、入学した生徒が一人の例外もなく大きな成長を遂げて卒業し、更に希望進路を実現できるよう、面倒見よく愛情に裏打ちされた厳しさの中にも暖かさをもった教育・指導・助言を行う。

また、2020年教育改革や平成33年度中学校学習指導要領改定、平成34年度高校学習指導要領改定など、対応すべき変化が今後目白押しとなっていることから、教職員も積極的に研修を通じて知識や能力の向上をはかる。

平成30年4月より、特進医療系コース・文理コース・中学校ともに教育課程の合理化を行うが、併せて広報活動にも工夫改善を行い、本校の教育に適性を持つ生徒のより多くの入学を実現させる。

(3) 帝京めぐみ幼稚園

遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりに応じた総合的な指導を行う。そのためには、幼児理解に基づいた計画的な環境の構成によって幼児が主体的に取り組み、遊びへの意欲を持てるようにする。具体的には、身近な動物への触れ合いを通して「思いやり」「優しさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を引き続き実施する。また、帝京短期大学食物栄養専攻学生による給食を取り入れた食育を実施している。さらに、短大キャンパスを利用した活動や自然体験、花壇や畑作業、地域の小中学生の職場体験受入や幼稚園内外の様々な人々とのかかわりなど、社会体験、直接体験のできる場を取り入れる。

(4) 帝京にしき幼稚園

幼児教育の質及び保育の専門性の自覚と資質の向上を目指す。そのためには、一人ひとりの幼児を理解するとともに自己を発揮する力を育めるような教育的な環境に配慮し、集団の中で個人が活かされるように、幼児同士がかかわり合うことのできる計画的な環境を構成する。具体的には、指導計画立案の充実を図り、幼児の発達を見通し、その発達が可能となるよう、それぞれの時期に必要な教育内容を明らかにし、計画性のある指導を行う。また、園行事や日常の活動を通して造形、身体、音楽など表現する楽しさや感動する心を育てる。

3. 教育環境の整備

帝京短期大学では、百草グラウンドのクラブハウス新築と、学務システムとコンピュータ演習室システムの5年更新時期にあたってのサーバー、パソコン等のハード更新とソフ

トの入れ替えを予定している。学務システム更新では、学生情報、履修登録、シラバス等の充実化と学生のコンピュータ教育環境の充実化を図る。証明書自動発行機も学務システムと同時に更新する予定である。図書館では、図書購入費のレベルを本年度も維持し、教育研究活動に資する書籍の購入を継続する。

帝京八王子中学・高等学校では、平成 26 年 6 月に新体育館「蔦永館」が竣工し、日々の体育の授業やクラブ活動はもちろん、伝統文化鑑賞会や吹奏楽部の演奏会・ダンス部の発表会など多目的に利用し、保護者や一般の来場者にも教育環境のアピールを行っている。

帝京めぐみ幼稚園では砂場の抗菌砂の入れ替え、園庭の整地等、園児の健康により配慮した保育環境を整備する。

帝京にしき幼稚園では、教育内容の充実につながるよう各保育室の保育環境を整えていく。また、引き続き園児・保護者の利便性と安全性を高めるため、園バスの買い替えを検討する。

4. 学生支援の充実（帝京短期大学）

保健室に複数の養護教諭を配置し、個々の学生の対応を丁寧に実施している。さらに、保健室や各学科・コースから出された、支援の必要な学生対策として学生相談支援委員会を定例化し、全学的な支援の充実を図っている。平成 27 年度から帝京平成大学の臨床心理センターが利用できることになり、より専門的な支援が受けられるようになった。平成 28 年度から学生向け保健だよりを発行し、健康問題について意識を向上させている。また、学習支援が必要な学生に対して個別支援を開始した。併せて教員の学生理解を深められるような研修も継続している。今後も、これらの対策を充実させていく。

就職・進路指導にあたっては、キャリアサポートセンターが中心となって担当教員との連携のもと、学生をこまめにフォローすることで、全国短大平均を上回る就職率を目標とする。学生面談を実施し、適宜状況をフォローし就職・進学をサポートしていく。また、外部講師や新卒応援ハローワーク等と連携し就職指導の充実を図るとともに、内定者を囲んだ座談会や学内合同企業説明会等の機会も設けていく。

5. 学生募集計画（帝京短期大学）

アドミッションポリシーに合致した学生を受入れるため、8月から3月にわたりAO、推薦、一般、社会人など多様な入試制度とともに、大学入試センター試験利用入試においても募集していく。対面イベントとしては、平成 30 年度より早期開催、開催回数増加を計画し、5月に高校3年生と保護者を対象とした入試説明会を実施し、6月～10月に開催するオープンキャンパスを実施していく。3月には高校2年生を対象とした春のオープンキャンパスを実施し、次年度の対面イベントに繋げていく。また、入試広報課職員のみならず教員も高校訪問を行い、本学の教育内容を説明するとともに募集活動に努めている。

インターネットやスマートフォンの普及に伴い、広報活動も新聞や雑誌等の紙媒体からWeb媒体への広告に移行をすすめ、ホームページ、スマートフォンサイトのフルリニューアルをすすめていく。さらに、見学者や電話の問い合わせに対し、懇切丁寧な対応をすることで志願者の増加に繋げていく。

6. 地域社会への貢献（帝京短期大学）

昨年度、これまでの地域貢献活動は渋谷区との S-SAP 協定の提携に集約された。これに合わせて、S-SAP では「ささはたっこ(こどもテーブル)」を中心に「ささはたカフェ」や「花コミュニティ」、東京ふれあいロードプログラムの下での地域花活動、「代々木警察ボランティア隊」、「都・区との美化活動提携」、長年積み重ねてきた「地域のイベント支援(渋谷フェスティバル参加など)」などの継続に加え、「2020 オリ・パラ」ボランティア事業参加の要請に積極的に対応する。これらの事業展開を契機として学生の社会性能力の向上を工夫・改善し、その学習成果の測定やアセスメント精度を上げる。

7. 自己点検・評価 (帝京短期大学)

平成 30 年度の自己点検・評価は、平成 29 年に公表されて第 3 評価期間認証評価に基づいて実施する。平成 30 年度の PDCA サイクルによる学習成果報告書は、全科目の実施を図り、各教員が授業の改善に繋げるようにする。各委員会と連携し、自己点検・評価を実施していく。新任教員を対象に自己点検・評価について研修会を実施し、帝京短期大学の自己点検・評価について理解していただく。

8. 平成 30 年度予算の概要

(1) 収入

帝京短期大学の学納金は、入学者数が若干増えることにより前年度予算比増収の見込み。帝京八王子中学・高等学校は在学生数減により前年度比減収、帝京めぐみ幼稚園、帝京にしき幼稚園の学納金はほぼ横ばいを見込む。学校法人全体では、学納金は前年度予算比減収の見込み。

(2) 支出

上述の百草グラウンドクラブハウス新築、提供短期大学の PC、システム更新による施設設備の支出増と、各学校・幼稚園とも給与改定・定期昇給による人件費増を見込む。

(3) 事業活動収支差額

事業活動収支差額は、収入減少により前年度予算比減少となるが、学校法人全体では引き続き無難な水準を維持する見込みである。

以 上